

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地：長野県上田市上田 186-6
評価実施期間： 令和4年6月1日から令和5年2月16日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載）  B2020067      B2020068      50431	

### 2 福祉サービス事業者情報（4年10月現在）

事業所名：第二明星学園 (施設名)	種別：障がい者支援施設
代表者氏名：宮下 智 (管理者氏名) 宮下 智	定員（利用人数）： 60名
設置主体：社会福祉法人明星会 経営主体：社会福祉法人明星会	開設（指定）年月日： 昭和54年 4月 1日
所在地：〒399-2561 長野県飯田市駄科 2191-1	
電話番号：0265-26-9456	FAX 番号：0265-26-9094
電子メールアドレス：myojo-gakuen-iida@clock.ocn.ne.jp	
ホームページアドレス：https://myojo-gakuen.or.jp/	
職員数	常勤職員： 46名      非常勤職員 21名
専門職員	(専門職の名称) 名
	社会福祉士 2名      社会福祉士 名
	介護福祉士 9名      介護福祉士 1名
施設・設備 の概要	(居室数)      (設備等) 個室57室、2人部屋2室      食堂3室、浴室3室

### 3 理念・基本方針

1) 法人理念 『みんな幸せになりたい あなたも私も』
(2) 憲章 明星学園は、本当の気持ちを伝えられずに困っている知的障がい・自閉症の方に、「パーソンセンタード（本人中心）」を基本とした、行動すべてが発信であるという「お心主義」の信念で、「意志決定支援」を実践する、あなたも、私も幸せになる場所です。
(3) 行動基準 ①笑顔で明るいあいさつを、自分から先にします。 ②利用者の目線で安全を考え、健康や環境に異常を感じたら直ぐに報告し対応します。

- ③どんな小さな発信も受け止め、対等、肯定の姿勢で意志決定をサポートします。
- ④職員同士で報・連・相を行い、お互いを認め、助け合うチーム支援をします。
- ⑤家族や地域に情報発信し、情報共有を行います。
- ⑥関わる全ての人に「ありがとう」「助かったよ」を伝えます。

※この行動基準を全職員が実践することで、法人理念に近づくものと考えており、法人が求める人物像であるとも言えます。

#### 4) 明星学園運営方針

「明星学園10年構想～グランドデザイン～」を見据え、どんなに障がいが高くても、地域社会で「主体的に生きる」ことによって自己実現が満たされることを目指し、「コミュニケーション技術」、「自己確立と自己実現の支援」、「社会参加への支援」を行っていきます。

また、様々な障がいと多様なニーズを持っている利用者に対して、異なる価値の共存を認め合う「共存社会の実現」に向けて、利用者一人ひとりの「どんな暮らし」のために「何が必要か」を包括的に考え、求められる活動支援を行っていきます。

家族会との連携、外部機関との連携を図り、支援サービスの向上をめざしてまいります。

## 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

- 日中活動（仕事や活動）として、アクリルたわし、ひのきの入浴剤、クッション、ヘアアクセサリなどの生産品を作成し外部販売を行ったり、空き缶つぶしなどの軽作業やアート活動、アロマセラピー、運動、音楽、ドライブなどさまざまな選択肢を用意し、「癒し」「ゆとり」「生きがい」を心がけながら充実した生活が過ごせるよう支援しています。
- 明星学園主催の「療育研究会」「臨床動作法飯田月例会」等研修を積極的に行い、毎月、理学療法士（外部講師）による運動機能回復などを、言語聴覚士（外部講師）による嚥下などの食事支援を指導して頂くことで、職員の資質向上と支援力の強化を図っています。
- 開かれた施設を目指して、ブログを積極的に活用し、利用者の日常的な活動や職員紹介・日常エッセイなどを掲載し、施設の様子を随時お伝えしています。  
また、年2回発行の広報誌「プリズム」を地元地域に配布したり、回覧板に乗せて頂いたり、学校関係、役場、施設関係などにも配布し、幅広く広報しています。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	1回（平成30年度）
---------------	------------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

### ◇特に良いと思う点

#### 1. 法人の創設以来、利用者中心の変わらぬ理念と実践の取り組みがなされている。

法人の長い歴史の流れの中において、理事長をはじめとして、先駆的に長野県の福祉事業をリードしてきたその実績は、特筆されるべく、高い評価としてあげられます。また近年における様々な、難しい時代背景の中にあっても、一貫した利用者中心の理念は変わらず、その実践の中から常に前向きな姿勢は、理事長や職員の直接の面談の中で感じることができました。

#### 2. 理念・基本方針などが、わかりやすく明記されている。

令和4年度の業務計画書において示されている、理念・憲章・行動基準は、わかりやすく明記されており、令和4年6月に実施された評議員会の資料においても、事業報告書等わかりやすく簡潔にまとめられていました。

#### 3. 自己選択を尊重した支援

利用者ニーズに適切に対応できる仕組みが確立され、それぞれの希望に沿った支援が行われていることが、アンケート結果及びそれぞれの立場での面談の中で確認することができました。

日頃の日中活動の充実を図るべく、言語聴覚士・理学療法士・アート活動・音楽療法・動作法など多種目にわたる取り組みがあり、特にアート活動について、利用者さんの面談の中でも、意欲的に取り組んでいる様子が感じられ、発表の機会もあり、充実感と張り合いをもって生活されている様子が印象的でした。

#### 4. 委員会組織の充実した取り組みについて

事業所の運営において、重要な役割を果たしている各委員会組織があげられ、どの委員会においても業務計画書の中で、それぞれの活動内容が明確に示されています。

委員会の数は14を数え、中でも職員の資質を高めるための人材育成委員会、虐待防止やハラスメント防止など人権問題全般を対応する人権倫理委員会、業務内容の改善を図って長く働ける職場づくりを目指す業務改善委員会等、様々な委員会組織によって、利用者の支援内容の充実はもとより、職員の士気を高める要素となっているのではないかと思います。

### ◇特に改善する必要があると思う点

#### 1. 情報の共有と統一性のある周知と対応について

前回の評価調査（平成30年）と比較して、常勤職員及び非常勤職員がどちらも増員となっており、第二明星学園においては、総勢70名近い職員体制となっております。集団が大きくなることによって、より情報の共有については難しい課題となり、日頃の工夫によって対策も強化されているところとは思いますが、今回のアンケートの集計においても、その共有の難しさを現実の課題としてあげられている結果も出ています。この点について今後も情報の共有を意識しながら、利用者への対応についてより統一性のとれた支援をめざし、さらなる工夫と強化を図っていただければと思います。

#### 2. 保健業務の負担度について

日頃の生活場面における業務については、どの業務においても負担増の状況は現実

としてあげられるところですが、近年の感染症などによる保健業務については、60名の利用者の命に係わる重要で緊張感のある業務となっていることは、それぞれの立場で理解はされているところではありますが、保健業務の軽減とはいかないまでも、このことについて所内全体で共有した理解の上に立って、今後もよりしっかりした協力体制をとっていただきたいということを、評価の改善というより要望という形で触れさせていただきました。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目
- ・ 内容評価項目

## 8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添3-2）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）